

呼

びたるやうすを見るに、悴が妻にして相應の年ごろなりといひけるが、いつしか後妻と、その子と終にひそかに通じて、家に居ること叶はで、他國へ奔りて、夫婦となれりとかや、その親かゝる一言より、若輩の心みだる、基とはなれるなり人は多言を慎むべし、多言はやぶれあり譏をももとめ、身を亡すは口なり、農夫町人たりとも、一言以て知とし、一言以て不知とするは古人の誠なり、つゝしむべし。

〔新撰字鏡〕恍 口良反、惚也、又驚  
也、興波○不、又興不、

〔伊呂波字類抄〕興字呼 ヨハフ

嘆亦作喚

召速叫稱叱呵咲招咤呻嘯

哮ヨハフ

中

〔倭訓栞前編三十六〕よばふ 號呼をいふ、ばふ反ぶなれば、よぶに同じ、新撰字鏡に、恍をよばふとも、よぶともよめり、よば、るともいふ、はる反ふ也。よばふをのべたる詞也、伊勢にてよばるといふ、ばる反ふ也、○略

よぶ 呼をよめり、よ、と聲する也、號呼也、

〔古事記〕大神男命、須佐之、故爾追至黃泉比良坂、遙望呼謂大穴牟遲神曰、其汝所持之生大刀生弓矢以而汝庶兄弟者、追伏坂之御尾、亦追撥河之瀬、而意禮二字以音爲大國主神、亦爲宇都志國玉神而其我之女須世理毘賣爲嫡妻而於宇迦能山三字以音之山本於底津石根、宮柱布刀斯理、此四字於高天原、冰椽多迦斯理、此四字而居、是奴也、

〔萬葉集五〕歌貧窮問答歌一首并短歌略 中

楚取五十戸良我許惠波寢屋度麻低來立呼比奴可久婆可里須部奈伎物能可世間乃道、  
〔源氏物語三十一〕そうなどめして、かぢ參りさはぐ、よばひの、しり給聲など、思うとみ給はんに、ことほりなり、